

「会津若松市におけるユニバーサルデザイン推進提案」 心のユニバーサルデザインを目指して

インテリア 柴崎ゼミ

A2201002 榎本 瞳

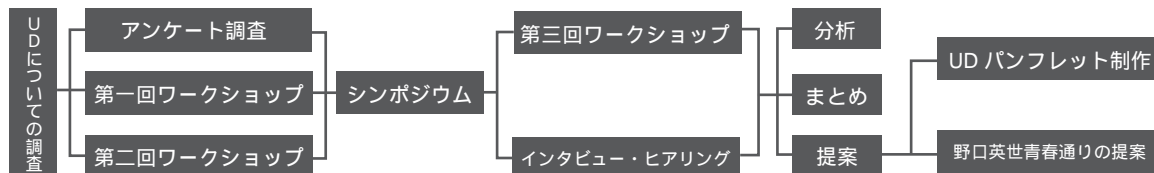
概要

会津若松市ではユニバーサルデザイン（UD）整備が進んでおらず、市内の情報の取得が困難であったり、車道や歩道の整備がなっていないと、多くの問題を抱えている。高齢化が進む現代では、各街のUD整備が不可欠であり、それは会津若松市でも同様である。そこで、会津若松市役所の方々にもご協力をいただき、アンケートやワークショップを行いながら、市民の方々と共に会津若松市のUDについて考え、UDの推進をはかる。

研究の目的・背景

会津若松市はさまざまな人が訪れる観光地であるが、UDの整備が不十分であったり、危険な場所が多くあったりといったのが現状である。そこで、会津若松市を誰にでも住みよいまちにするための「UDのまちづくり」の研究を行う。また、会津若松市では平成18年9月から市のUDの推進計画進めてきている。そこで、会津若松市役所の方々にもご協力いただき、共に研究を進めていく。最終的にはハードとソフト、さらにはUDを啓発するための言わば心のUDについても考慮した提案を行う。

研究方法



調査結果

アンケート調査

会津若松市のUDについてのアンケートの作成を行った。そして、UD推進計画を担当する市役所の方にご協力いただき、アンケート調査を行った[会津若松市民23人に実施(男性8人、女性15人)]。その結果、会津若松市には不便だと感じる点や危険な場所が多々あることがわかった。また、どのようなまちになってほしいか、という質問では「安心・安全なまち」などのハード面にくわえ、「助け合えるまち」「相談しあえるまち」などソフトな意見も多かった。

第一回ワークショップ

自分がUDだと思うものを持ってきてもらい紹介し合い、それらをUDの七つの原則に基づいて分類した。結果UDの製品が多く発表され、UDは現在では身近な存在になっていることがわかった。だが、ソフトなUDを発表した人は一名しかいなかった。ソフトなUDは認識されていないことがわかった。



第一回ワークショップの発表内容

第二回ワークショップ

キーワード「建物・道路・景観・情報」

会津若松市の改善してほしい所を、「建物・道路・景観・情報」に分類して、参加者のみなさんに写真で取ってきてもらい、それを発表しあった。そして最後に講評会を行い、会津若松市で最も改善したいところを「駅前の地下道」に決定した。ハードな改善点が多く上がったが、そのハードな面を改善することは難しい。そこでソフトなユニバーサルデザインなら誰にでもできるので、ソフトなユニバーサルデザインに取り組もうという結果になった。もともと、ユニバーサルデザインはソフトなものであり、心で取り組むことが大切だという意見が出され「心のユニバーサルデザイン」の重要性を知った。



改善点

発表風景

シンポジウム

テーマ「みんなで考えよう心のユニバーサルデザイン」

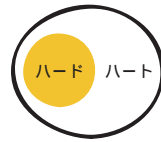
五人のパネラーの方のお話を聞き、市民の方とユニバーサルデザインについて考えるパネルディスカッションを行った。「みんなで考えよう心のユニバーサルデザイン」をテーマに今の私たち一人ひとりに何ができるのかを考えました。パネラーの方は日々心のユニバーサルデザインに取り組んでおり、心のユニバーサルデザインとは何なのかを考えさせられるシンポジウムになった。ものの力で人を楽にすることはもちろん可能だが、人の気持ちを楽にさせるのは人の気持ちだということを知った。



シンポジウムの様子

第三回ワークショップ

シンポジウムの結果をもとに、会津若松市が今後どのように取り組むのか、どのようなソフトウェアが考えられるのかなどを参加者と考えた。また、市で発行することになったUDのパフレットの構想案も発表した。



ユニバーサルデザインの考え方

参加者からの意見

- ・会津は歴史的建造物も多く、UDに配慮した改修を行ってしまったのではせっかくの歴史性が損なわれる。そういう場合は、改修ではなく人の手助けや協力でカバーしていくことが大切である。
- ・障がい者も自分たちから積極的に周りの人に「手を貸してくれませんか」と自分の思いを言葉にして発していくことも大切である。
- ・UDの取り組みは手段であり、市のビジョン、どういうまちを目指していくのかを示すことが重要であり、その実現に向けてどのように取り組んでいけばよいのかということが必要だと思う。etc.

インタビュー・ヒアリング

シンポジウムでパネラーとして参加していただいた4人の方に、改めてインタビュー・ヒアリングを行った。どのような活動をしているのか、この活動に取り組もうと思ったきっかけは何かなど、シンポジウムより詳しく話を伺うことができた。4人の方は誰もが『思いやりの心』についてお話ししており、UDとは『思いやり』をもった行動のことをいうのかと私は思った。

分析・考察

UDをハードな面で改善することは、金銭的にも、会津の観光を守るという点でも難しい。しかし、UDは決してハードを改善すればよいということではない。たとえば、いくら市の道が分かりにくくても、周りのお店や市民が優しく声をかけてくれれば、その問題は解決する。そんなやさしいまちになれば、観光客も増えるだろう。

今回の調査で分かったことは、UDの本当の意味は『思いやりの心』であるということだ。思いやる気持ち、やさしい言葉、気遣い・・・、このような人から人へ思いやる気持ちが本当のUDであり、ハードを改善するよりもずっとすべての人のためになると思った。しかし、ハードなユニバーサルデザインを追及しなくても良いのか、というそうではない。ハードとソフトを両方追求していかなければならない。まずは、市民へUDを理解してもらう必要がある。市民一人ひとりが本当のUDを理解し、UDに取り組もうと思ってくれる市民を増やすことから、この計画は始めるべきである。

提案

会津若松市ユニバーサルデザインパフレットの提案

ユニバーサルデザインを広く会津若松市民に知ってもらうためのパフレットを提案する。“ユニバーサルデザインとは何か？”から始まり、“ユニバーサルデザインとバリアフリーの違い”“会津若松市のUDへの取り組み”などを紹介する。パフレットは市民向けのものであり、子供でも大人でも読みやすいものをデザインする。



ユニバーサルデザインパフレット

野口英世青春広場を拠点とした通りのユニバーサルデザイン提案（共同研究）

(1) 回遊路と初恋の小路

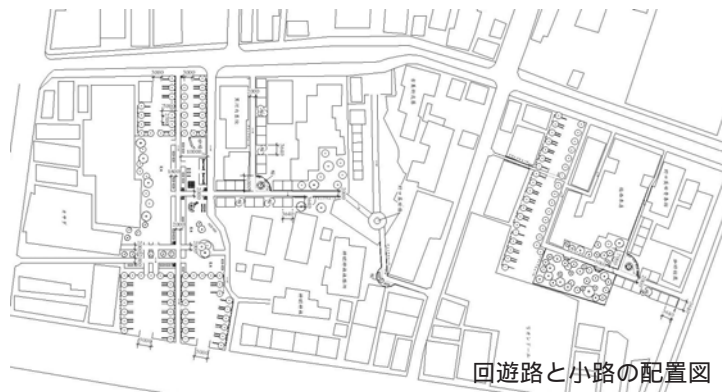
野口英世青春広場を拠点とし、そこからあらゆる道への回遊路を計画する。路は野口英世青春通りを同じようにレンガを用いて計画し、路の両脇にはレンガづくりの小さな店を置いたり、色彩を利用した看板をつくり回遊路をわかりやすく通れるように計画する。

(2) パーキングパーク

野口英世青春通りにある大きな駐車場を利用し、車も停められて遊ぶことができるパーキングパークを計画する。

(3) 野口英世青春通りのブリックライト・ブリックベンチ・ブリックディスプレイの提案

景観を考慮し、野口英世青春通りに設置するライト・ベンチ・ディスプレイをデザインする。



回遊路と小路の配置図

考察・まとめ

UDにもっとも欠かせないものは『思いやりの心』だということが、今回の研究で強く感じたことである。UDを市で進めていく上で、この『思いやりの心』を市民が持つことがUDのまちづくりにつながるのではないだろうか。『すべての人にやさしいまち』はすべての人がやさしくなければいけないのだと私は思う。人を思いやる心、助け合う心が、その人にとって一番嬉しいことであると思うし、ものに頼らなくてもUDのまちはつくりあげることができると思う。人の気持ちを改善することは、とても難しいことであるが、そういった努力がUDには必要なのではないだろうか。